

(3) 推進委員より(五十音順)

あかぎ無限大キャンプに秘められた可能性

國學院大學人間開発学部 准教授 青木 康太郎 氏

限界突破キャンプに続き、キャンプの教育効果の研究を担当させていただきました。今年は、3日間、キャンプに参加させていただき、子供たちと一緒に野外炊事やテント設営、レクリエーションなどを楽しみました。今回は、途中でキャンプが中止となり、残念ながらメインプログラムの登山に行くことができませんでしたが、それまでのキャンプ生活をみていると、日頃の生活では味わえないゆったりした時間の中で、自分たちのやりたい活動を存分に楽しんでいる子供たちの姿がたくさんみられました。その結果、研究では、あかぎ無限大キャンプを通じて子供の社会的能力が向上する可能性が示唆されました。教育効果については引き続き検証が必要ですが、キャンプ生活を送る子供たちの姿をみていると、あかぎ無限大キャンプには今回の研究では示されなかった秘められた可能性があると感じています。

新たな長期キャンプ

群馬県西部教育事務所生涯学習係 社会教育主事 青山 裕也 氏

今年度は協働的な体験プログラムを通して、多様性を認め合える意識の醸成を図ることを趣旨とした「あかぎ無限大キャンプ」が実施されました。決められたプログラムに沿って活動するキャンプと違い、複数のメニューから参加者同士で互いの意見を尊重しながらグループで意思決定したり、さらには自分自身で自己決定したりするキャンプとなりとても新鮮でした。

私が参加した本キャンプ3日目は、プログラムのスケジュールにもゆとりがあり、出会って間もない同世代の仲間と自然を満喫しながらの協働活動は、自分自身や他者を知ることができ、心のトレーニングにもなったと思います。忙しく過ぎていく日常と離れ、自然豊かな場所でゆったりと活動できる体験プログラムは、参加者にとって「豊かな心」も育むことができる新たな長期キャンプの姿になるのではないかと感じました。

キャンプの先に見える無限大の景色

慶應大学医学部 眼科学教室 特任助教 小川 護 氏

昨年の限界突破キャンプに引き続き、本年度もキャンプ中に眼の測定を行わせていただきました。新型コロナウイルスという見えないものに対して子供たちは自分たちでできることを考え取り組んでいました。難しいと感じる検査もあったはずですが、最終日の検査では小学生とは思えない集中力でした。あかぎ無限大キャンプを通じて心と身体が成長していったのだと思います。ご協力を誠に感謝申し上げます。

事前キャンプや事後キャンプもあり、様々な経験ができたことと存じます。個人的には、長七郎山に登頂しまして、豊かな自然を感じながら環境測定を行いました。昔から子供はお家の中にばかりいないで外でよく遊びなさいと言われていますが、なぜ良いのかはいまだにはっきりとは分かっていません。研究を深め、屋外活動の眼や体への良い影響を科学的に明らかにし、子供たちの健康増進のサポートができれば幸いです。

(4) スタッフより

自分も相手も大事に

企画指導専門職 小林 大輔

「あかぎ無限大キャンプ」の24名の仲間とともに課題に向かって励まし合いながら過ごした日々は、みなさんの世界を大きく広げました。これからの学校生活でも様々な人と出会うと思います。その時は、「あかぎ無限大キャンプ」を思い出し、自分の意見をしっかりと示し、相手の意見も尊重して、よりよい人間関係を築いてもらいたいです。遠くからですが、いつまでも応援しています。また会いましょう。

出会いと成長

企画指導専門職 中山 太平

この「あかぎ無限大キャンプ」を通し、みなさんはたくさんの経験をし、成長しました。一人ではできないこともグループの仲間と助け合い、支えあいながら乗り越える姿が毎日のように見られました。このキャンプでの出会いを大切に、そしてこれからの出会いも大切にしてください。そしてこのキャンプで学んだ、「自分も相手も大事にすること」を忘れずにいてください。

常に真剣に前向きに

事業推進係 小林 久瑠美

仲間と協力しながら活動しているみなさんの顔は、とても真剣でやる気に満ち溢れていました。何よりも、班で工夫して何事も全力で楽しもうとする姿から、みなさんの無限大の可能性を感じました。これからは、キャンプで学んだことを生かして、それぞれの場所で活躍してくれることを期待しています。

そして、国立赤城青少年交流の家にまたいつでも帰ってきてください！お待ちしております。

子供たちの笑顔のために

学生サポーター 細田 希星

昨年度の限界突破キャンプでは、班付きボランティアとして、子供たちと活動をとおして多く関わりました。今年度は運営スタッフとして、ボランティアと連携を図りながら運営の協力をしました。昨年度と違った立場を経験できたことで、子供たちが笑顔で活動するためには、事前の準備の大切さなど新たな学びを深めることができました。

自分で考えること

文教大学 片倉 隆之介

様々なことを考えて、悩んで、行動して、また考えてを繰り返したキャンプでした。しかし、それは子供たちも同じだったと思います。自分は何をしたいのか、この状況では何をすべきなのかをたくさん考えてもらいました。お互いにとって忘れることの出来ない経験ばかりでした。関わってくださった全ての方に感謝しかありません。

心の壁を下げる

國學院大學 齋藤 隻斗

私の目標は、子供たちの心を開かせ、常に笑顔を絶やさない環境を作ることでした。心を開かせるには、子供たちの心の壁を下げさせるような関わり方が必要でした。それをボランティアの仲間と模索し、意見を出し合うことで私たち自身の心の壁を下げることができ、緊張することなく子供たちと関わることに繋がりました。

子供たちの笑顔のために仲間と切磋琢磨した経験は、私の財産となりました。

信頼を築く重要性

國學院大學 坂元 力

私は、全体ボランティアとして全ての子供と話し、信頼関係を築くよう努め、指導者として子供が居心地のいい相手となるよう、青木先生の講義を基に行動しました。見ることや、考えることが多くあった全体ボランティアという役割は、子供との信頼関係を第一に考えて行動することで、他のリーダーとは違う新たな役割として行動できたのではないかと感じました。

